第１２節

ज्ञानं यदाप्रतिनिवृत्तगुणोर्मिचक्र-
　　मात्मप्रसाद उत यत्र गुणेष्वसङ्गः ।
कैवल्यसम्मतपथस्त्वथ भक्तियोगः
　　को निर्वृतो हरिकथासु रतिं न कुर्यात् ॥ १२ ॥

jñānaṁ yad āpratinivṛtta-guṇormi-cakram
ātma-prasāda uta yatra guṇeṣv asaṅgaḥ
kaivalya-sammata-pathas tv atha bhakti-yogaḥ
ko nirvṛto hari-kathāsu ratiṁ na kuryāt

jñānam—知識; *yat*—～であるもの; *ā*—～の限界まで; *pratinivṛtta*—完全に退いて; *guṇa-ūrmi*—物質界の様式の波the ; *cakram*—渦巻き; *ātma-prasādaḥ*—自己満足; *uta*—さらに; *yatra*—～があるところ; *guṇeṣu*—自然の様式の中に; *asaṅgaḥ*—無執着; *kaivalya*—超越的; *sammata*—承認されて; *pathaḥ*—道; *tu*—しかし; *atha*—ゆえに; *bhakti-yogaḥ*—献愛奉仕; *kaḥ*—誰が; *nirvṛtaḥ*—～に没頭して; *hari-kathāsu*—主に超越的な話題の中で; *ratim*—魅力; *na*—～ではない; *kuryāt*—する。

至高主ハリと関係のある超越的な知識は、物質界の様式という波と渦をすっかり静めてくれる知識を与えてくれる。それは自ら満たされている知識である――物質的な執着とは無縁で、崇高な質に満たされているために権威者たちに認められているからである。この知識に心惹かれない者がいるだろうか。

要旨解説

『バガヴァッド・ギーター』（第10章・第９節）は、純粋な献愛者の気質はすばらしい、と言います。かれらが見せる非の打ち所がない活動は、主への奉仕に励む思いに満たされており、自分たちのあいだで法悦感や超越的な至福を感じあっています。この崇高な喜びは、正しい精神指導者に導かれて行なえば、献愛奉仕の活動の段階（*sādhana-avasthā* サーダハナ・アヴァスタハー）にいても味わうことができます。円熟した段階になると、その崇高な感情は主との特別の絆を悟る形で頂点に達し、その感情こそが生命体がもともとそなえる気質です。このように、バクティ・ヨーガは、神を悟る唯一の方法だからこそ、*kaivalya*（カイヴァリャ）と呼ばれています。シュリーラ・ジーヴァ・ゴースヴァーミーは、この点に関連

してヴェーダの節を*eko nārāyaṇo devaḥ, parāvarāṇāṁ parama āste kaivalya-saṁjñitaḥ*（エーコー　ナーラーヤノー　デーヴァハ、パラーヴァラーナーンム　パラマ　アーステー　カイヴァリャ・サンムギタハ）と引用し、「ナーラーヤナ・人格主神をカイヴァリャ、そして主に近づくことのできる方法をカイヴァリャ・パンター（*kaivalya-panthā*）、すなわち神に到達する唯一の方法と言う」と断言しました。このカイヴァリャ・パンターはシュラヴァナ（*śravaṇa*）「人格主神にまつわる話を聞くこと」から始まり、このハリ・カター（*hari-kathā*）から生まれる自然な結果は「超越的知識の獲得」であり、その結果献愛者は俗な話に無頓着になり、なんの味わいも感じなくなります。献愛者にとって、通俗な活動は（社会的・政治的なものでも）味気ないもの思え、自分の体にでさえ関心を失うのですから、自分の体に関係することにも興味がなくなるのは当然です。この心境になった人は、三様式の波にも乱されなくなります。物質的様式にはいくつも種類がありますが、俗な人々が関心を寄せている、あるいはかかわっている俗な活動はどれも、献愛者にはつまらないものに思えてきます。その心境がこの節で*pratinivṛtta-guṇormi*（プラティニヴリッティ・グノールミ）と述べられており、それは*ātma-prasāda*（アートゥマ・プラサーダ）「物質的なものとは無縁の完全な自己満足」によって可能になります。主の一流の献愛者は献愛奉仕をとおしてこの境地に入りますが、すでにそのような気質をそなえているのに、主を満足させるために、主の栄光を賞賛する布教徒として積極的に活動するようになり、その奉仕のためにすべてを（俗なことでも）取り入れます。その目的は一つ、初心の人々が持つ俗な関心を崇高な喜びに変えることです。シュリーラ・ルーパ・ゴースヴァーミーは、純粋な献愛者によるこの活動を*nirbandhaḥ kṛṣṇa-sambandhe yuktaṁ vairāgyam ucyate*（ニルバンダハ　クリシュナ・サンバンデヘー　ユクタンム　ヴァイラーギャンム　ウッチャテー）と表現しています。通俗な行ないであっても、主への奉仕にあてはめれば超越的な活動になりますし、またカイヴァリャの活動として認められるようになります。